

令和 6 年度
上野法律ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会結果報告書

令和 7 年 6 月 27 日

学校法人上野教育学園
上野法律ビジネス専門学校
理事長 久保田 高永

令和 6 年度学校関係者評価報告

学校法人上野教育学園上野法律ビジネス専門学校では、本校規程に基づき、学校関係者評価委員会を令和 7 年 6 月 26 日に開催いたしました。以下に、その内容をご報告いたします。

今後教職員一同は、各評価委員よりのご意見等を踏まえまして、教職員一同は更なる教育内容の向上及び適正な学校運営の確保に努めていく所存でございます。

引き続き、一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

1. 学校関係者評価委員名簿および学内出席者

氏 名	所 属	役職等
土川 英司	盛岡市材木町商店街振興組材木町青友会	会長
齋藤 宏明	株式会社東北銀行（安藤貴弘委員の代理）	夕顔瀬支店長 渉外課長
清水 友博	盛岡市役所（本校卒業生）	子ども未来部子育てあんしん課
野中 美優	社会福祉法人 手をつなぐ（本校卒業生）	手をつなぐ安心生活支援センター
和田 勝弘	上野法律ビジネス専門学校	校長
佐々木 茂	上野法律ビジネス専門学校	教務課
恩田 陽子	上野法律ビジネス専門学校	教務課
熊谷 愛子	上野法律ビジネス専門学校	教務課
廣瀬 尚生	上野法律ビジネス専門学校	教務課

2. 委員会次第

- (1) 開会・委員長挨拶
- (2) 委員紹介
- (2) 学校関係者評価委員会の趣旨・目的等の説明
- (3) 令和 6 年度本校取組・自己評価等の結果報告及び質疑応答
- (4) 令和 7 年度本校取組について質疑応答
- (5) 閉会

3. 内容

校長和田勝弘より、開会挨拶の後人口減少に教育機関としていかに向き合うかこの会議をぜひ活かしていきたいとの話があり、その後教務課佐々木茂より委員の紹介・委員会の趣旨・目的等の説明を行った後、令和6年度自己評価等の結果を、教務課佐々木茂より、各評価項目について報告を行った。その後、当該報告及び研修報告等に基づいて、関係者委員の皆様と質疑応答を行い、意見提言を受けた。

(1) 教育理念・教育目標

5つの評価項目とも全て最高評価を付けた。令和6年度は創立30周年記念講演会・祝賀会等を行い、より一層外部への本校の教育理念や教育目標の情報発信が行われた。

(2) 学校運営

給料明細の電子化や職員間の連絡システムが構築され、効率的な業務遂行が一層可能となったが、職員間の情報スキルの格差が課題であり研修会等も検討したい。

(3) 教育活動

令和6年度は当校の30周年事業があり、非常勤講師を含め関係者に改めて当校の歴史や教育方針等を伝えることができ、在校生に対しては卒業後の社会生活に活かせる講話を行った。また令和5年度に引き続き教員に対する研修及び卒業生・保護者に対するアンケートは行っている。

(4) 学修成果

就職に関しては100%の就職率・進路決定率を達成した。留学生は年々卒業生が増加していくなかで全員就職が決まり、来年度もより計画的に就職活動を支援していく予定である。また、例年課題のメンタルを原因とする退学については職員が研修を受けているので報告を行った。また、当校OBに対して会報誌の発行は行っているがOB会のような行事も考えても良いのではとご指摘をいただいた。

(5) 学生支援

学校入学予定者は例年通りオリエンテーション等を行って学校生活をスムーズにはじめられるようにしている。また、公務員学科・ビジネス学科とも就職先の団体・企業を招いての説明会を積極的に行っている。退学に関しては学校医との連携も視野に入れて対策をする予定である。

(6) 教育環境

令和6年度は本館のエアコン設備の全面リニューアルを行った。令和7年度は全館をLED照明器具に交換する予定である。

(7) 学生募集

学校情報（コース選定・実績・入試情報等）は、前年度よりも詳細な内容を意識し、特に実績の見方や選定基準を明確に伝えるよう工夫した。説明会参加者からは「メリット・デメリットが分かりやすかった」との声があり、一定の評価を得たと捉えている。一方で、情報提供のための高等学校への訪問回数は減少させ、DM、SNS、Web 広告などを活用し、広報活動を行った。

(8) 財務

前年に続き日本人学生は減少傾向にあるため、ニーズを捉えた学科コースの設置を検討する。また、留学生の入学者は増加しているため、受け入れの拡大を検討する。

(9) 法令遵守

私学法が改正され、新しく役員が選任された。今後も適正な学校運営を心がけたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

学生にボランティア活動を広く告知している。留学生もお祭りの参加などで地域貢献をしている。また、今後は、日本語学科において、地域住民との交流会を行いたいと考えている。

(11) 国際交流

令和 6 年度もビジネス学科・公務員学科において日本人学生と留学生との交流授業を行った。一緒に歌を歌うなど年々交流が深まってきていると感じる。

4. 本年度の総合的な自己評価結果と今後の課題

令和 6 年度は日本人の就職・公務員試験とも好調であったが、留学生の就職はより高い日本語や英語レベルが求められるようになってきており、今年度も早めに就職対策を始める必要がある。また、将来に向けて、高校生のニーズを捉え新たな学科の検討検討を行いたい。

5. 研修報告及び質疑応答

本校職員より「若年層の自殺対策にかかわる人材育成」をテーマにした研修の報告を行った。研修では、孤独という辛さから逃れたい心理から、依存症になる確率が高まるため、それを防止するために、友達などの中に自分の居場所を作ることが大切であることを学んだ。このことから、普段の学校生活の中で学生の居場所づくりを意識して取り組んでいきたいとの説明があった。

次に本校職員より令和 6 年度の就職状況を報告し、特徴として企業を選ぶ際に知り合いがいるからや、親がいるからなど、以前なかった傾向があることを報告した。委員からは、

逆に、企業がより企業を知った方に就職してもらうために、社員の子供や親戚等を積極的に採用しているとの説明があった。入社後も身近な相談者が社内にいるために相談しやすいなど利点も多く、働きやすい制度であるとの意見をいただいた。

さらに、就職時期が早まっていることについて、複数の合格保持者が多く辞退者も多いため、より内定ラインを下げている傾向にあり、今後人口減少がさらに進めば魅力ある職場が大都市に集中するため、女性がますます大都市に流れることによって、さらに地方の人口が減っていくであろうとの意見をいただいた。

また、委員より介護の業種では今後は留学生をはじめ外国人労働者の力が必要になるとの意見をいただいた。

続いて本校職員より公務員学科の就職状況について、令和 6 年度は合格率等は良好であり、今年度も順調である旨を報告した。また、公務員インターンシップも積極的に行っており、委員より盛岡市役所でのインターンシップも勧めていただいた。

最後に、本校職員から留学生が増加している状況の説明があり、地域との交流を積極的に進めていきたいとの説明があり、委員の経験からも、外国人が日本に来てから孤独にならないことが重要であり、留学生及び外国人労働者と日本人との交流が大切であるとの意見をいただいた。また、どうしても外国人に対して苦手意識のある日本人が多いが、学校としては積極的に交流活動を推進してほしいとの意見もいただいた。

今後も岩手の専門学校として地元役に役立つ視点、国際化の視点等を大切に、地域社会や企業・団体等との連携を図りながら、変化する社会に対応できる人物の育成を行う専門学校として発展ができるように、教職員全員で協力して努めていくことを確認して閉会した。

以上